

高千穂の火山活動と前方後円墳の祭祀

—天孫降臨神話の背景を考える—



東海大学文学部 北條芳隆

吉備地域の弥生中期社会は南方との交流の拠点



岡山市南方遺跡には鹿児島県域の土器とともにゴホウラが持ちこまれ、ここでペンダントに加工された

最初の「王」の就任儀礼は吉備の楯築弥生 墳丘墓で完成し,実演された



遺骸を「龍王」に就任させる即位儀礼であった可能性が高い
「龍王」の象徴としての弧帯文石

多数の巨石を30 km以上も海路運び入れる空前絶後の造宮事業
海民集団の積極関与なくしては実現不可能な一大事業

青銅鏡と親和性の高い現象

復活する太陽もしくは月の光
(アマテラス)

青銅鏡の制作と連動する神
話のモチーフ

「天地溶造」
(タカギムスヒ)



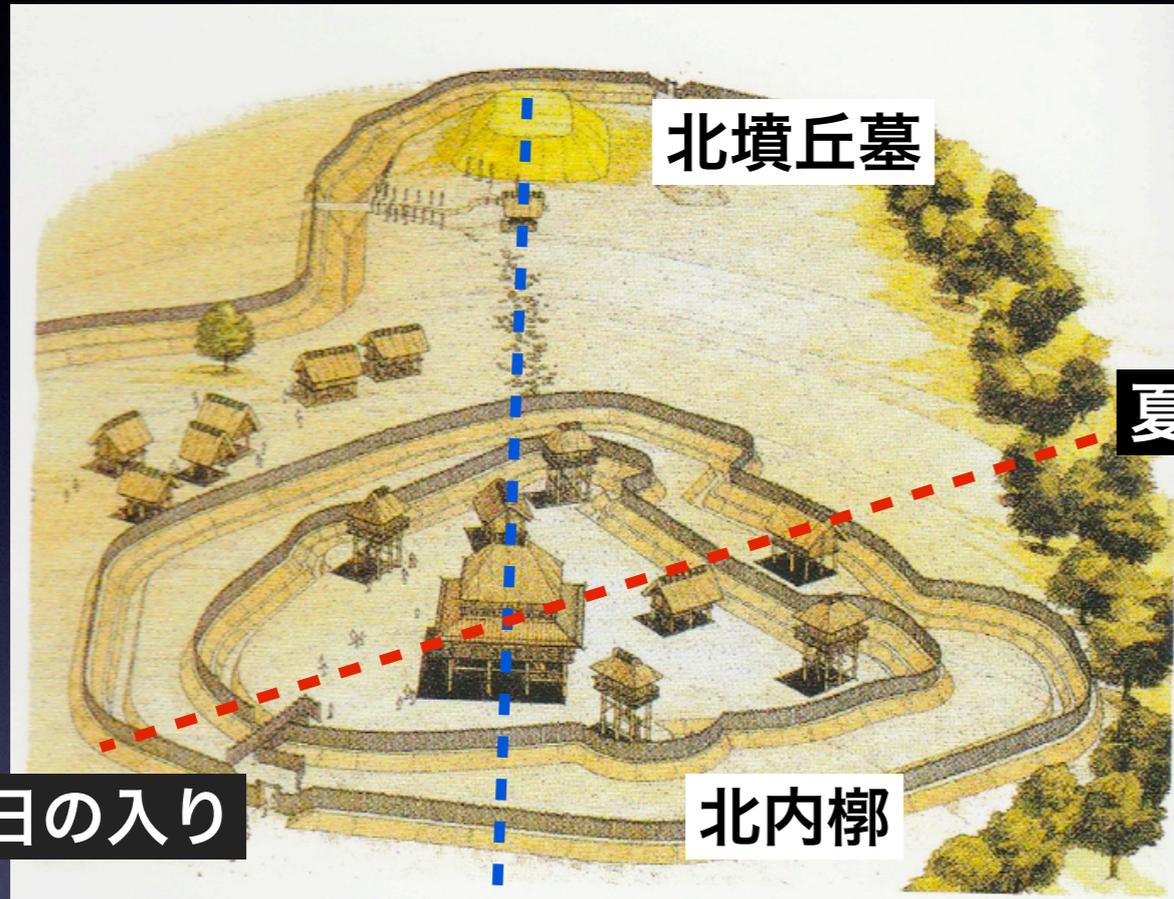
1. 弥生時代にさかのぼる火山信仰



火山のパワーにあやかる吉備の王墓

祖霊祭祀と火山信仰を同調させた吉野ヶ里遺跡

北墳丘墓-北内櫓-雲仙普賢岳の直列配置をとる。北内櫓の軸線は夏至の日の出に向けられており、祭祀の日取りが二至に行われた可能性を示す



夏至の日の出



雲仙普賢岳

北墳丘墓からみた雲仙普賢岳



雲仙普賢岳



北墳丘墓

2列埋
葬の集
団墓群

大型建物

南の祭壇

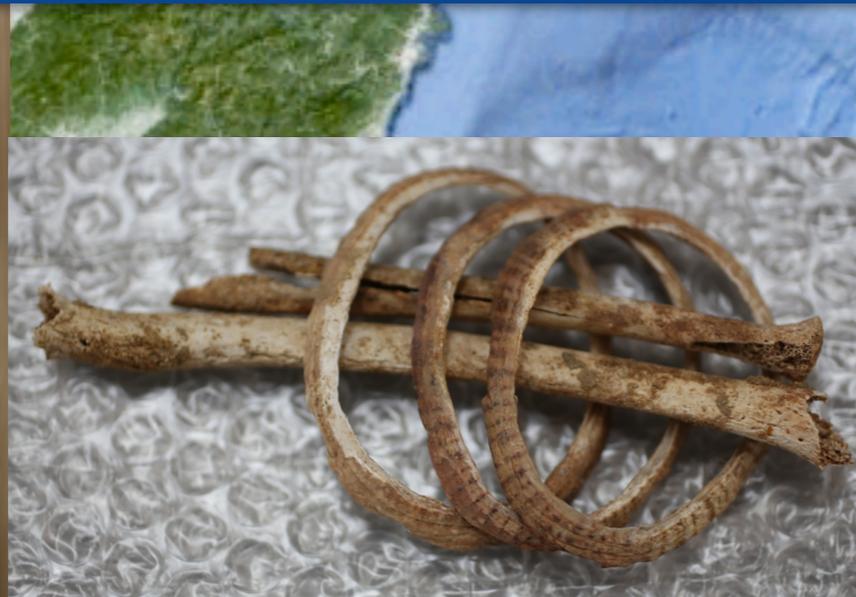
雲仙普賢岳

雲仙普賢岳に軸線に向けた直列配置

瀬戸内海沿岸部に残る濃厚な南方系の要素



ゴホウラ・イモガイ貝輪の濃密な分布
楯築弥生墳丘墓の弧帯文と直弧文の施されたゴホウラ貝輪
南からの移住者集団（海洋民か）が残した可能性の高い埋葬



香川県観音寺市鹿隈箱式石棺墓群 8号（古墳時代前期中葉）

火山列島としての日本

「龍王」は噴煙とともに天空に昇る

火山は「龍王」の住み処に
相応しい



楯築墳丘墓は人工の火山を創り上げる目論みだった可能性

保立道久氏の〈前方後円墳＝火山の造形〉説



楯築弥生墳丘墓の弧帯文石
は人面（蛇）龍体の造形

「龍王」の象徴

龍は噴煙とともに飛翔する

死した王を龍に転生させ、天
に飛翔させる装置が楯築弥
生墳丘墓



火山の造形

春成秀爾氏の〈弧帯文＝人面蛇体説〉

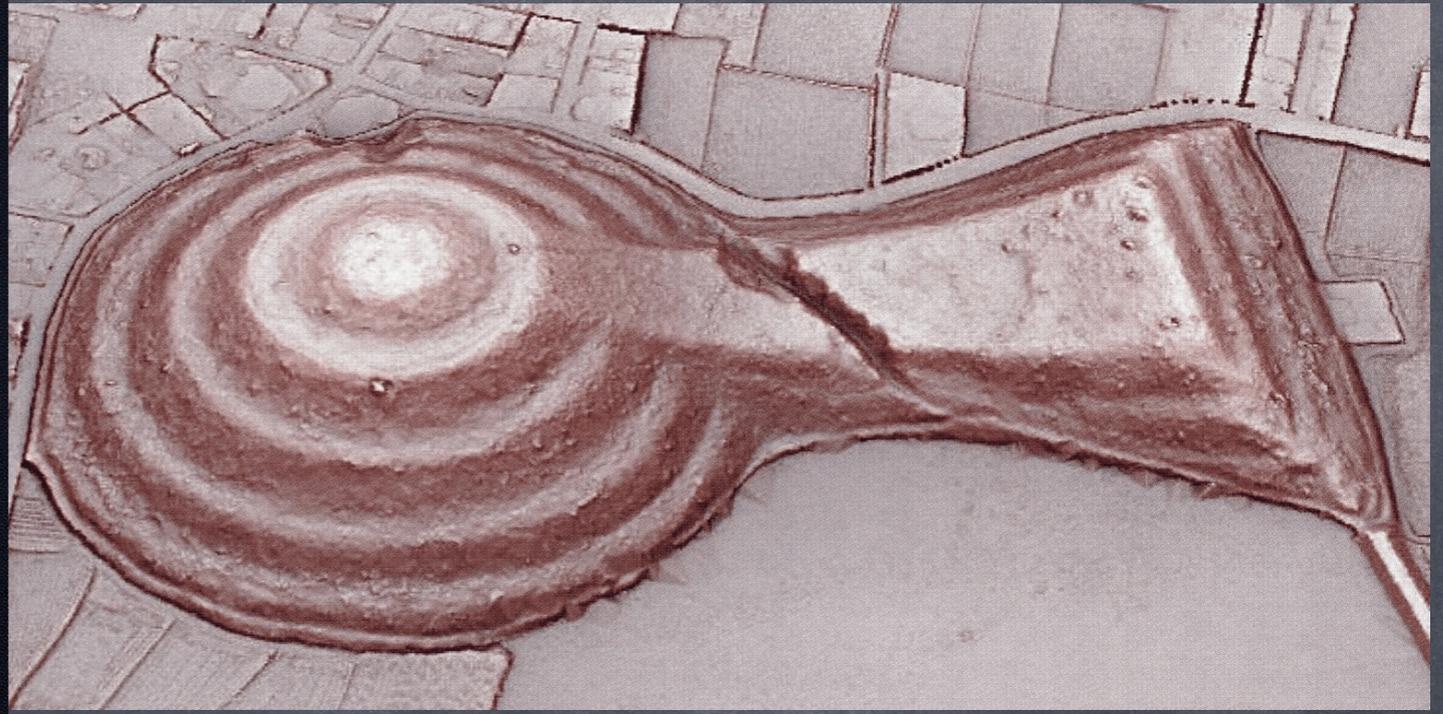
最初の「王」の就任儀礼は吉備の楯築弥生 墳丘墓で完成し,実演された



遺骸を「龍王」に就任させる即位儀礼であった可能性が高い
「龍王」の象徴としての弧帯文石

死せる王の権威を火山に見たてる
火山の超然たるパワーにあやかる発想

女王卑弥呼と箸墓伝承



「龍王」 を戴く備讃勢力との政争に敗れ自死した彼女の姿
御諸山（弓月岳）に棲まい倭迹迹日百襲媛命を自殺に追い
やった大物主が蛇身であったという「日本書紀」の伝承

箸墓伝説と魏志倭人伝にある「以死卑弥呼」は二重写しになる

天孫降臨神話は火山の噴火が基本モチーフ



火山の超然たるパワーにあやかる発想

死した王を龍に転生させる古墳祭祀

富士山を恐れ崇めた古代駿河の古墳時代人



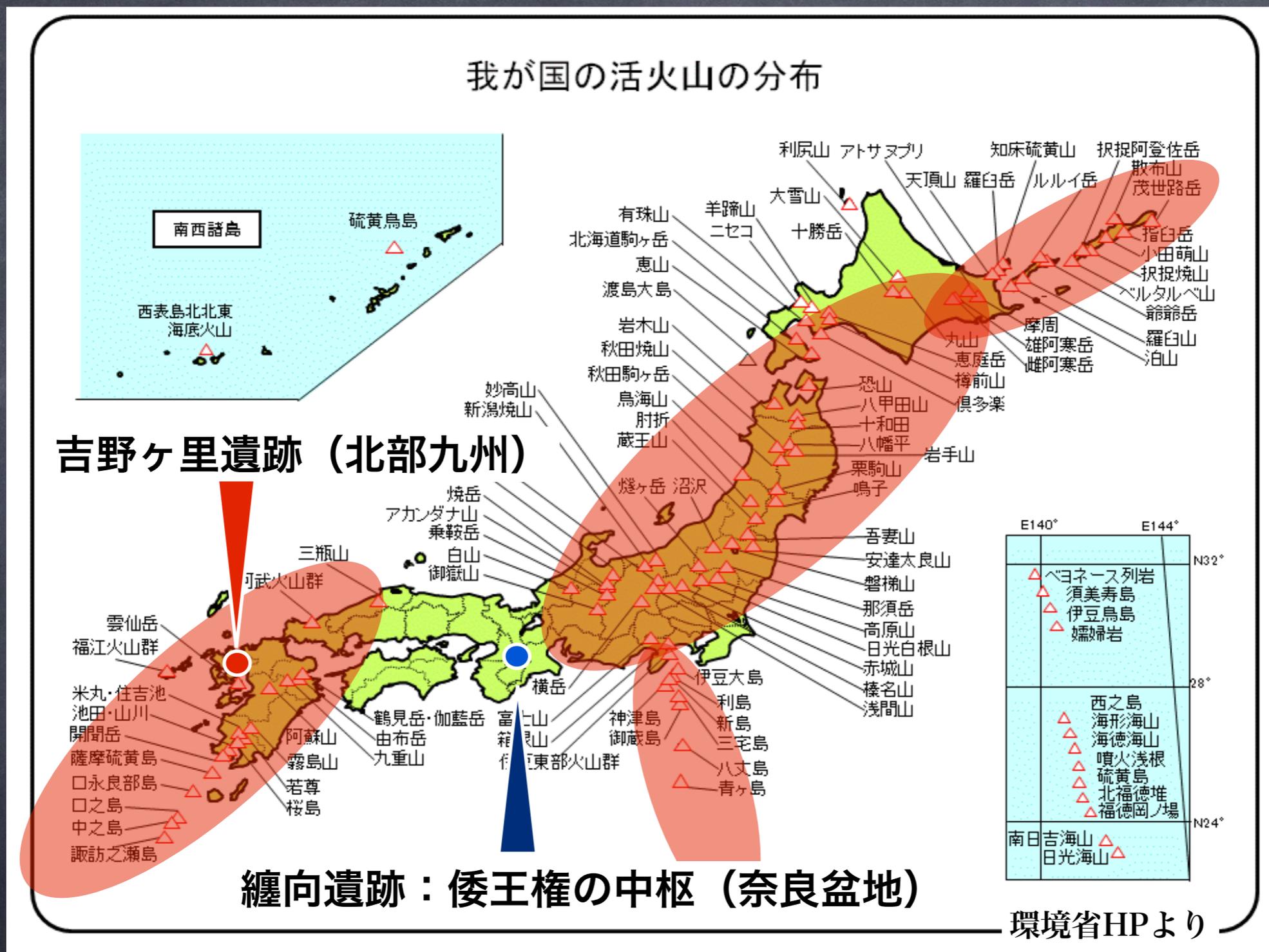
集団の首長埋葬の場

前方部＝墓道

静岡県富士宮市丸ヶ谷戸遺跡（3世紀末頃）報告書の掲載写真より

駿河地方最古の前方後方墳は軸線を富士山に向けた

日本列島における火山地帯（活火山の分布）



非火山地帯（四国や近畿地方）では火山の代替としての擬似火山信仰「神奈美山」信仰が必然化した可能性が浮上する

2. 北方系神話と南方系神話の融合



北方系神話のモチーフ

対馬海流

記・紀神話

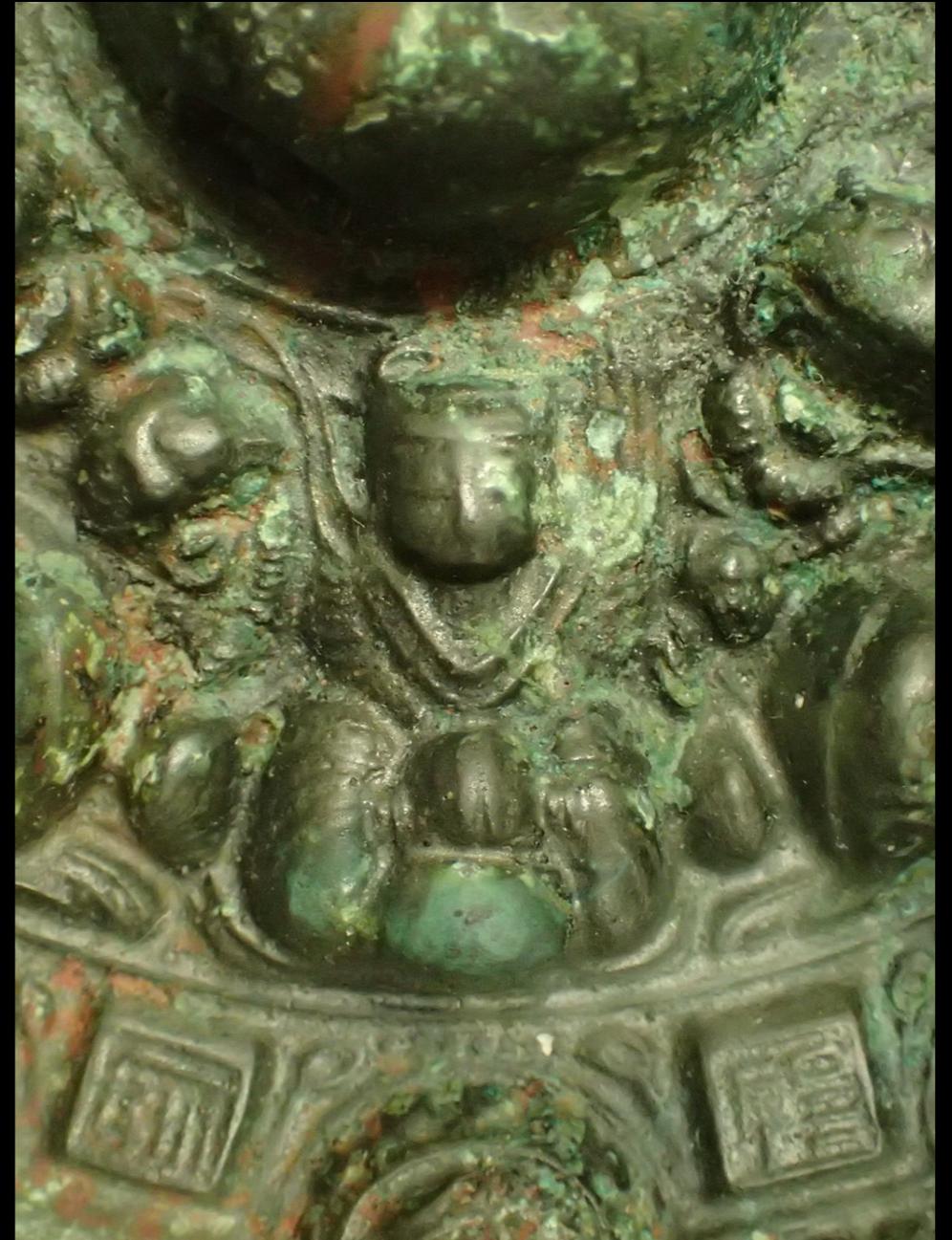
黒潮

南方系神話のモチーフ



古代中国の神仙思想（他界観）を表出する神獣鏡

北方系の他界観



西王母への信仰

右下（前）腕

死後の装着を物語る

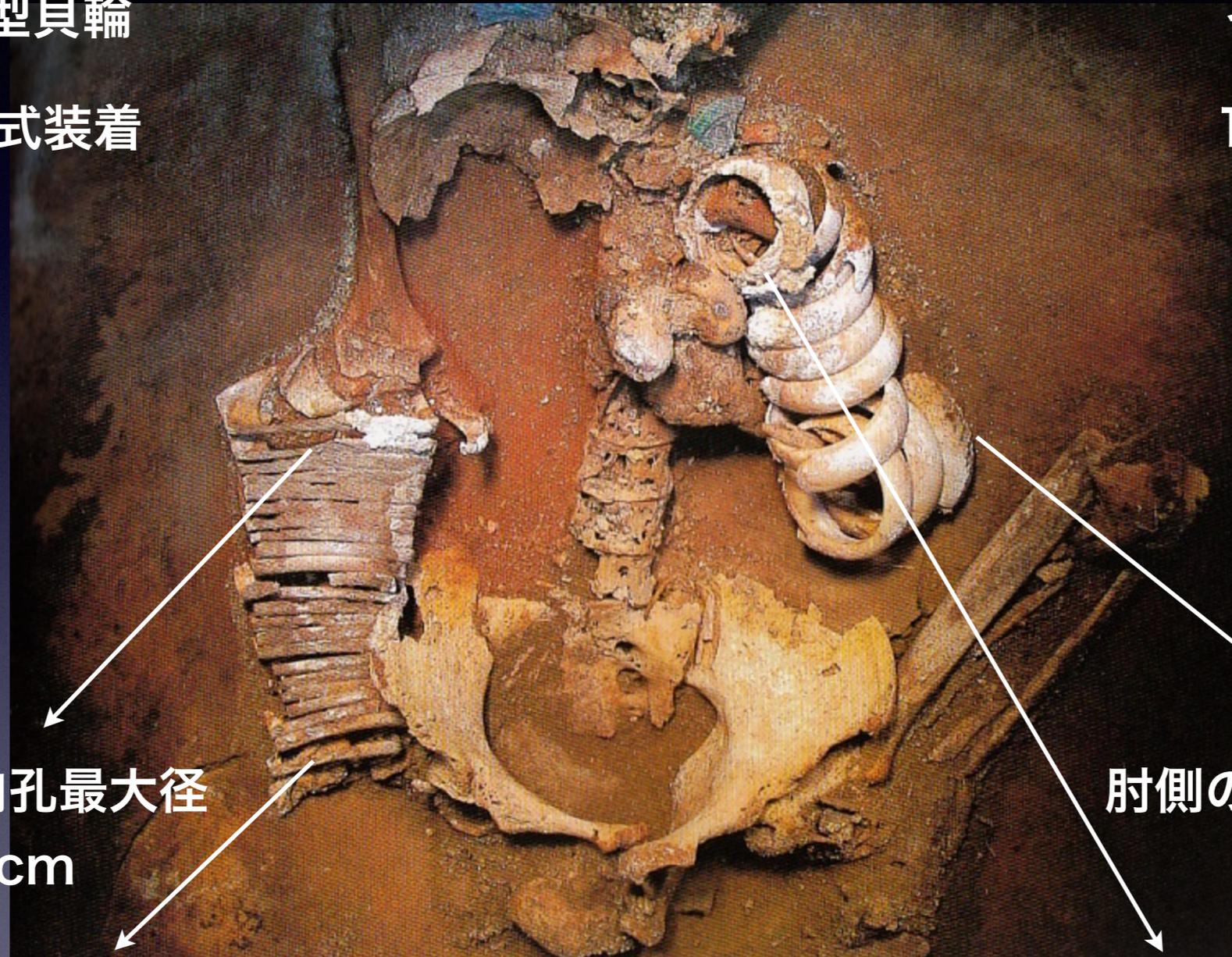
左下（前）腕

イモガイ縦型貝輪

25個の多段式装着

イモガイ横型貝輪

11個の多段式装着



肘側の個体の内孔最大径

7.8×5.5cm

肘側の個体の内孔最大径

7.0cm

手首側の個体の内孔最大径

5.8×4.2cm

手首側の個体の内孔最大径

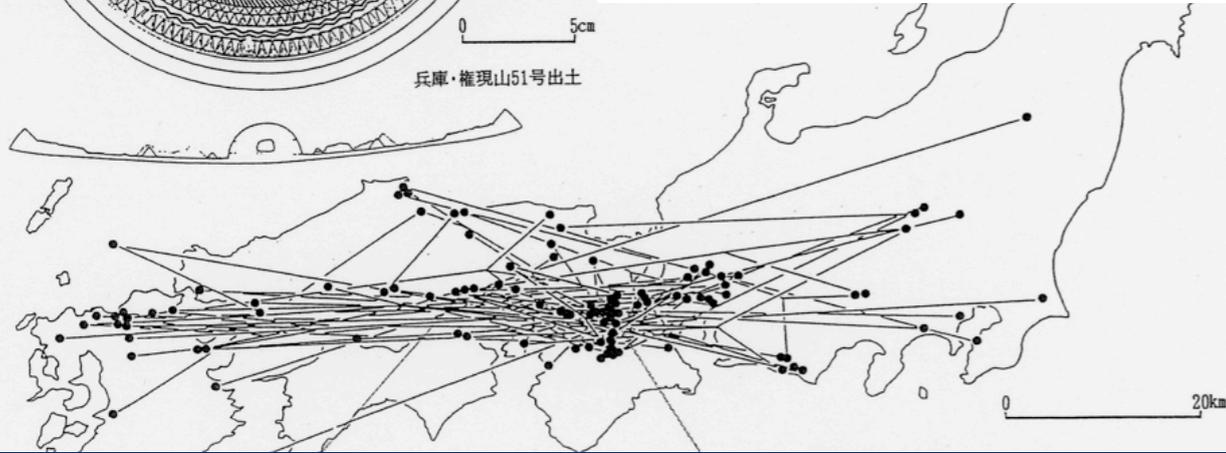
5.1cm

40歳～50歳の女性が両腕に総計31個の貝輪を装着

腕輪形石製品の祖型貝輪多出地帯としての東部瀬戸内

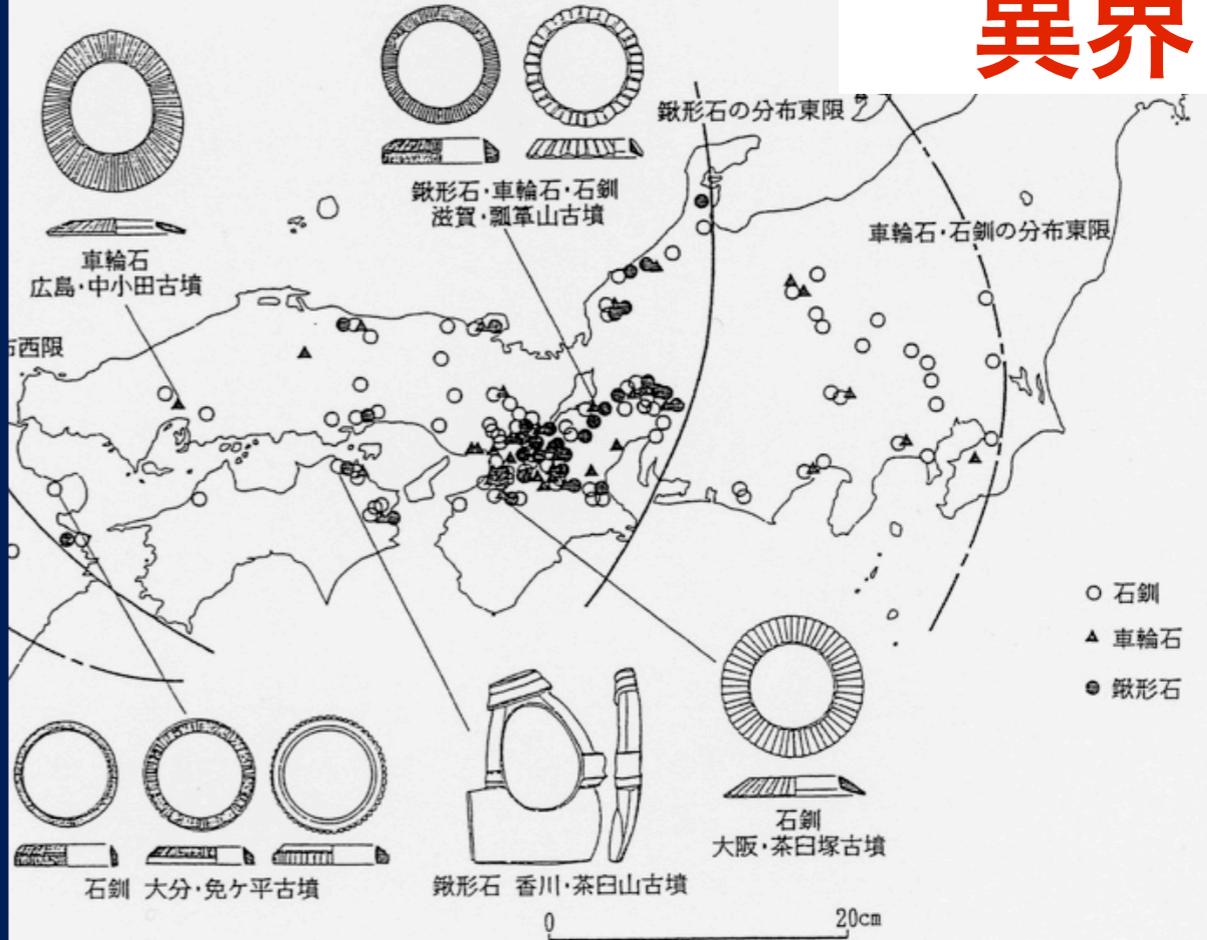
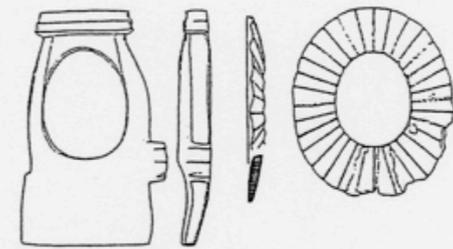


北方系 魏王朝 文明



倭王権の差配のもと各地に贈与された古墳祭祀用のアイテムの代表

南方系 琉球 異界



両系統のアイテムをもって遺骸を囲む



倭王権は南方系と北方系の双方の葬送習俗を古墳祭祀に組み入れた

記・紀神話にみる北方系と南方系の要素の融合はこうした祖霊祭祀の成立時に求められる

西暦4世紀の奈良盆地が融合の舞台

青銅鏡と親和性の高い現象

復活する太陽もしくは月の光
(アマテラス)

青銅鏡の制作と連動する神
話のモチーフ

「天地溶造」
(タカギムスヒ)



火山列島であるがゆえの融合・祭祀の構造化



墳丘全体は火山を表象し（保立道久説）、埋葬は北方系と南方系の神話を融合させて祀る

「天地溶造」・タカギムスヒ
オオナムチ = 火山神

北方系神話のモチーフ＝天体運行を基礎とした宇宙観

北方系神話の受容＝火山から流れ出る灼熱の溶岩に重ねた可能性



南方系神話のモチーフ＝海を基盤とする他界観

冥界の垂直構造説

「黄泉国」 = 山中 「殿」 = 両国の境界

「根の堅州国」 = 山中の地下

火山を頂点に「黄泉国」は序列化
化されていた可能性がある



鼻龍



現実の景観上「鼻龍」が想起される火山列島ならではの他界・冥界観

記・紀神話の基本構造

主題は「死と再生」・「創始祖先と今」

時間の観念：「循環」と「集積」

天体現象と周辺景観への認知と意味づけ

暦 主要な天体の神格化 海原や火山の神格化 方位観

それぞれを象徴する文物を創造し関連づける → 「創始祖先と今」

死者の埋葬を神格化された対象に向かわせる → 「死と再生」



ご静聴ありがとうございました



2013年12月25日午前7時15分



墓域 = 人為景観化された山 = 他界

ヨモツヒラサカ = 墓域から降り下る坂

コトドワタシ = 墓域と人界の境界での決別

弥生時代後期以降は墓域が山中に営まれる。この現実の習俗が山中他界観の基礎をなしたと考えるのが自然である。すなわち「黄泉国」は人為景観化された山の別称であった。

泰山（古代中国における魂のゆくえ）



古代中国でさえそうなものだから、東アジアの農耕民にとって、山に他界をみいだすことは普遍的な傾向だった可能性もある

泰山（古代中国における魂のゆくえ）



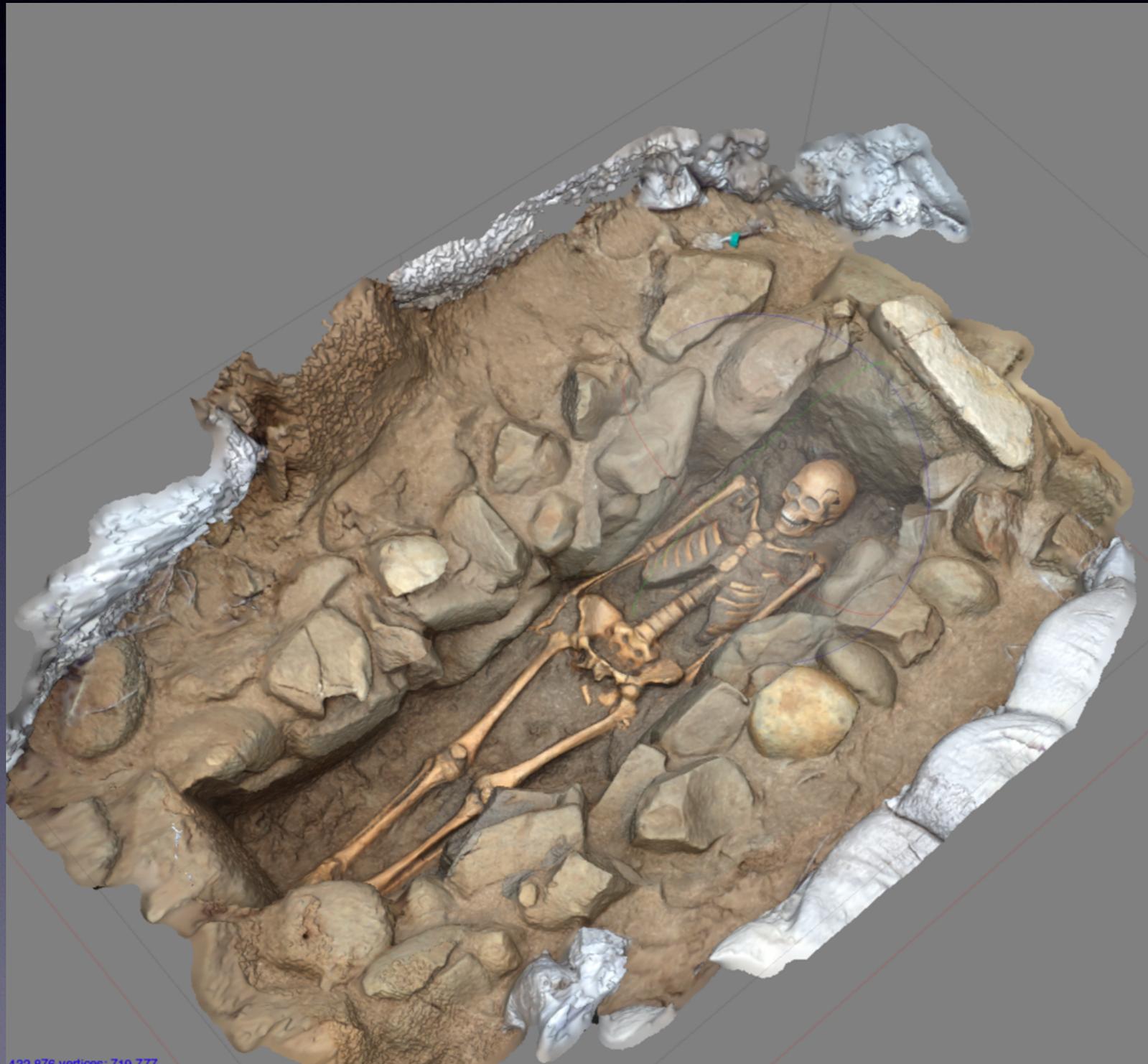
泰山山頂は天への階梯（秦の始皇帝もこの山頂で天を祀る儀礼をおこなった）⇒ 個別山中他界の頂点



泰山の山麓で死者の霊と遭遇する説話が数多い ⇒ 山中には階層化された他界が広がると想定された可能性

箱式石棺墓の意味を考えさせる新資料

(神奈川県鎌倉市長谷小路遺跡)



由比ヶ浜の砂丘上に単独で葬られた15歳前後の少年の埋葬で、年代は西暦6世紀頃。

身長にピッタリと合うサイズの箱式石棺。

肉付きの状態のまま石棺内部は完全に砂で覆われた。

そして頭部には...